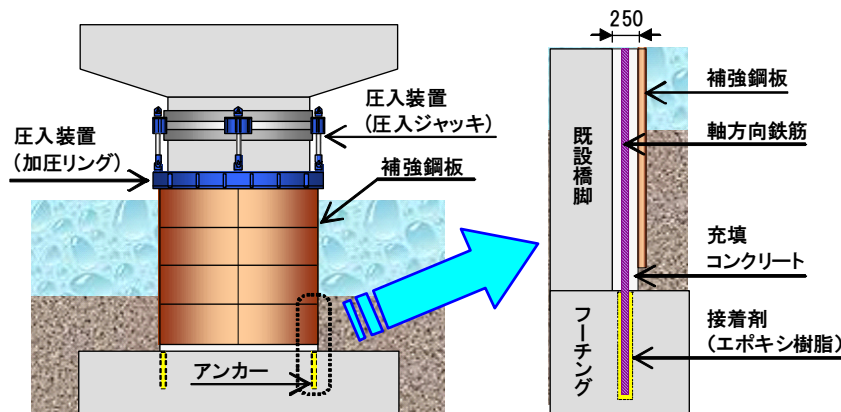


各位



大規模な仮設が不要な曲げ補強向上に対応した橋脚の耐震補強工法 ”ピア-リフレ工法(曲げ補強仕様)”の開発

東日本大震災以降、東海地震などの海溝型巨大地震や、首都直下型などの大規模地震の逼迫性が指摘され、道路橋やライフラインとして重要な水管橋などの橋脚の耐震補強も推進されているなか、弊社は厳しい制約条件下において、施工性に優れ、大規模な掘削および土留めが不要な圧入鋼板巻立てによる橋脚のせん断補強工法『ピア-リフレ工法』を展開してきましたが、このたび、曲げ補強に対応した圧入鋼板を用いた橋脚の耐震補強工法『ピア-リフレ工法（曲げ補強仕様）』を新たに開発いたしましたので、ご案内申し上げます。



従来の既設橋脚の耐震補強工法には、RC 巻立て工法や鋼板巻立て工法などがありますが、これらの工法は、鋼矢板などの土留め・仮締切を設置し、締切内掘削、排水を行って作業空間を確保する必要があります。既設構造物直下の厳しい制約条件下では、鋼矢板が短尺で多くの継施工が必要となることから、施工が困難で、工期が長く、工費も高額となるなどの課題があります。

弊社はパイルベント橋脚や PC ウェル橋脚の耐震補強工法として『Kui Taishin-SSP 工法』、『PC ウェル-リフレ工法』、橋脚のせん断補強工法として『ピア-リフレ工法』を開発し、圧入鋼板巻立法の実績を着実に増やしております。しかし、優先的かつ限定的に緊急輸送道路などを対象に実施された落橋等の甚大な被害を防止するための「橋梁耐震補強 3 箇年プログラム」が終了し、今後は現行の耐震水準を考慮した耐震補強対策が実施されるため、発注者、コンサルタントからは、せん断耐力向上に加えて曲げ耐力の向上が求められてまいります。

『ピア-リフレ工法』は、せん断補強工法であることから、これまでそれらの需要に対応することができませんでしたが、このたび、施工性に優れ、経済的な工法である同工法の特徴を生かしながら、橋脚の曲げ補強へ対応するため、同工法を更に発展させて、『ピア-リフレ工法（曲げ補強仕様）』を開発いたしました。これにより、一般的な従来工法に比べ、工費工程ともに 30% 以上の削減・短縮が可能となります。

■問い合わせ先

オリエンタル白石株式会社 経営企画室 神谷 保

TEL : 03-6220-0640 FAX : 03-6220-0641

E-mail : tamotsu.kamiya@orssc.co.jp